

地域林政対談 イン福岡

林業の成長産業化の実現に向けて林業を着実に発展させ、地域における雇用の場の創出と所得水準の向上をもたらす産業へと転換することが極めて重要な課題となっています。

このような中で、地域の森林・林業行政を牽引されている市町村長及び県関係者と九州森林管理局の林業関係機関が、各々の地域で実際に直面している具体的な課題について、同じ視点に立って今後の地域林業政策を展開していくことを目指して、情報交換や意見交換を行う懇談の場として「地域林政対談」を実施しています。

第十九弾は、篠栗町の三浦正町長にご参加いただき、地域林政の今後の展開や森林・林業の可能性などについて、意見交換を行いました。



森林セラピーロード
(篠栗九大の森コース)



森林セラピーロードのあじさい
(あじさい（杉並）コース)

森の鼓動が聞こえる遍路の郷「篠栗町長」

篠栗町は福岡市中心部から東へ約10 kmと近く、都市圏構成をしている自治体でありながら、森林面積が約7割を占めるなど環境に恵まれた町である。

本町は平成21年7月中国・九州北部豪雨による災害で甚大な被害を受けたが、国・県による災害復旧工事が平成28年度末までに完了したところであり感謝申し上げる。平成29年7月九州北部豪雨も発生したが、いづどこであるような災害が発生するかわからない状況。全国的な傾向であるが、篠栗町の人工林も齢級が高い。これまで間伐を主体に実施してきたが、主伐も増加してきており、森林の機能別にゾーニングを適正に行ったうえで天然林化を進める、再造林を行うなど、森林経営計画に基づいた適切な森林管理を実施することが重要である。



三浦正 篠栗町長

篠栗町では、福岡県広域森林組合と連携しながら町有林を中心に施策を実施している。小規模零細な森林所有者が多いことから、町有林化を進めているほか、施策の共同化を促進し、合理的な林業経営を推進していきたい。また、高性能林業機械を積極的に導入し、生産性の向上を図り、森林組合が地域林業の担い手として機能を十分に発揮できるよう、各種事業の積極的な取組に努めるとともに雇用体制の向上に努めたい。

町内では森林経営計画に基づいて、5ヶ年で約1万8千³㎡の木材生産を行ったほか、約30 kmの森林林業作業道の開設も行ったところ。また、平成25年か

ら町内森林面積の約6%にあたる約164 haについて荒廃森林再生事業として切捨間伐を順次実施したところ。今後も景観の良い山を保っていけるよう努めたい。

公共建築物の木造化については、平成25年から4年かけて中学校全教室の木質化を実施した。全て町産材を使用しており、壁はスギ、床はヒノキである。教室が静かになった、子供達にも良い効果があると非常に喜ばれ、福岡県の第1回木造・木質化建築賞優秀賞を受賞したところ。今年度は、すぎのこ児童館に約57³㎡の町産材を活用し木質化を図った。さらに、篠栗駅東側自由道路にはルーバー材として約50³㎡の町産材を使用する予定である。今後も篠栗町らしさというものを意識して、計画的に木質化を図っていきたい。

篠栗町では古くから「篠栗新四国霊場」としての歴史があり、今もなお「お遍路道」や「遊歩道」がある。そのような特徴を活かしたまちづくりを進めるなかで、新しい町の個性を創造する目的で森林セラピー事業に取り組むこととし、平成21年3月にセラピー基地として認定されたところ。現在、31名のガイドが森林セラピーロードに認定された6つのコースにおいて定期的にツアーを開催するなど、篠栗の森の魅力を発信している。これまで多くのメディアに取り上げられ話題となったが、森林が身近な存在であり、森林の中に入るとこれだけ気持ち安らぐというような森林の魅力を、一人でも多くの方に発信できたことが何より良かったと思っている。九州内で森林セラピーを実施している11市町村と連携した九州の森林セラピー基地めぐり等も含めて、これからも魅力ある事業を検討していきたい。

レクリエーションの森である若杉山について、町としてももっと上手に活用できないかと検討しているとこでであり、もっとPRできるような事業も考えていけたらと思うので、ぜひ皆さまからのお知恵を貸していただきたい。

（林業労働力の確保と林業担い手育成）

福岡県林業振興課長 福岡県では、林業従事者は年間約50名ほど新規で増えており、若手の林業従事者も増えている。ただ、安定的な所得がないために離職していくという話を聞くと。林業労働力の確保のためには、安定的な収益を確保していかなければならない。

篠栗町長 福岡県広域森林組合の職員は、若手を採用しており担い手育成を図っている。組合では採用後10年程度で独立したいという者に対して道具の支度金など支援している。林業労働力の確保のためには産業として林業そのものが活性化しなければならぬ。

福岡県林業振興課長 林業も機械化が進んでおり、県が実施する就職相談会でも若い人は興味を示している。県としても林業労働力の確保のため、森林組合と一緒に、森林林業を行うような新たな林業事業体を育成するなど、林業の担い手全体が増加するよう取り組んでいるところ。

九州森林管理局長 若い人は下刈をひと夏経験すると辞めてしまうといった声をよく聞くと。下刈の省力など、林業の低コスト化を推進していく必要がある。国有林でも、下刈の適期と言われる夏の暑い時期に実施する場合と、秋に実施する場合とを比べて、どの程度成長に差が出るのかなど、様々なことを検証している。また、シカ対策も含めて、通常の苗木より成長の早い特定母樹などの植栽により下刈の省力化ができないか等、効果を検証しているところである。

（公共建築物等の木造化と地元産材の利用拡大）

篠栗町長 木材の需要を何とかして高めたい。公共建築物に木材を使用するのは、シンボリックには効果があると思うが、一般住宅などにも日本らしい木造住宅を増やしていきたい。

局長 九州においては北米に国産の2×4（ツーバイフォー）材を輸出することも不可能ではないと考

えている。そのためには、持続的に仕事を回せる事業体の確保と、再造林の確保が必要である。今、九州の林業は分岐点である。ブランド力のある良質材はそれを強みとして売っていけば良いし、それ以外の並材についてはオール九州でまとまって、安定的に供給していく必要があるのではないかと考えている。

篠栗町長 森林組合が合併し、広域森林組合となつて良かったと感じている。民有林は手つかずだったが、ステップアップしたと思う。広域森林組合になったおかげで、高性能林業機械も導入され、森林林業が進むようになった。森林組合はただ単に市場に材を出せば良いという訳ではなく、川下のことを考えて、どこにどのような木材需要があるのか、見極めながら適時適切に供給する必要がある。

局長 川下は、どのようにしたら川上から安定供給できるか知恵を絞っている。山には資源があるので、それを循環していかなければならない。新たな森林管理システムのスキームのもと、目標をもった意欲と能力のある林業経営者を重点的に支援していくことが必要。今後5年、10年がポイントである。



篠栗町立篠栗北中学校

（第1回福岡県木造・木質化建築賞（木質化の部）優秀賞）

篠栗町長 木曾ヒノキを使って総ヒノキ住宅を建設して売っている例があるが、篠栗産のヒノキでも同様に作るのかという話も出ている。意欲のある事業者の方には、色々な取組を積極的に進めてもらいたい。

福岡県林業振興課長 林業事業者は複数の市町村に跨がって事業を実施していることが多い。市町村同士、また県と市町村が様々な形で連携して取り組んでいく必要がある。

局長 市町村の役割は益々重要となるが、県のインシアチブも重要である。都市と山村地域の連携など、皆がwin-winの関係となるような取組を進めてほしい。

福岡森林管理署長 事業者からは事業の将来性が確保できないと雇用の確保が難しいという声をよく聞く。国有林では事業発注の見通しを公表したり、3ヶ年一括して発注するなど工夫しているところ。民有林でも、ある程度長期的な数字を示すことができればよいと思う。

福岡県林業振興課長 県としても、安定的な雇用の場を創出するためにもそういった取組は必要であると思っている。苗木の生産とも密接に関わってくる。国版森林環境税の活用も考えながら、徐々にステップアップしていきたい。林業の機械化も一気に進んだが、それを持てあますことなくフル回転で稼働させるなど生産性も向上させていきたい。

篠栗町長 篠栗町では高性能林業機械の製造をしている業者に対し、町有林を試験林として提供しているところである。



篠栗駅東側自由通路内観イメージ図

(森林景観を活かした観光資源の創出)

署長 福岡市内から30分で行ける若杉山風致探勝林は、手軽に樹齢数百年のスギを観察することができることから観光資源としては非常に魅力的だが、セラピーロードから少し距離があるので、今のままの活用方法で良いのか、ハード面・ソフト面から県と町と連携して検討していきたいと考えている。

篠栗町長 見やすい看板なども整備していく必要があると考えている。地域住民の理解も必要である。

福岡県林業振興課長 セラピーロードも、その他の観光資源とどう繋げていくのか検討する必要があるのではないかと。また、今は子供たちが山に行かない時代になっている。もっと森林が身近な存在となつてほしい。学校の既存のカリキュラムに森林環境教育をうまく取り入れられないか検討している。

署長 森林環境教育では森林保護を重視されがちだが、循環利用が可能な資源であるという一面についても適切に教育できる人材の育成が必要である。



大和の巨杉群(若杉山風致探勝林)

地域林政対談 イン 福岡
平成30年2月21日(水) 15:00～17:00
福岡森林管理署会議室

出席者(敬称略)

○篠栗町

三浦 正	篠栗町長
栗原 俊孝	篠栗町産業観光課長

○福岡県

今泉 正彦	林業振興課長
佐伯 亮俊	林業振興課課長技術補佐

○林野庁九州森林管理局

原田 隆行	九州森林管理局長
安永 正治	福岡森林管理署長
勝沼 太志	九州森林管理局企画調整課長

